

高知市歯科医師会
令和 7 年度 医歯薬連携推進事業研修会のご案内

- ◎ 日 時 令和 8 年 3 月 6 日（金） 19:00～20:50
- ◎ 場 所 総合あんしんセンター 3F 大会議室
- ◎ 演 題 令和 6 年 能登半島地震からのメッセージ
「災害歯科・口腔保健活動と食支援を考える」
～ 災害サイクルを考えた連携シフト ～
- ◎ 講 師 公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長
「食力の会」 代表
長谷 剛志 先生

<抄録>

2024 年元旦。正月ムードで賑わう能登の夕暮れ時を襲った未曾有の大地震(震度 7・マグニチュード 7.6)は、住民の生活を一変させ、健康にも大きな爪痕を残しました。多くの不安や喪失感に加え、3 ヶ月以上に及んだ断水は、被災者の心身の疲労に追い打ちを掛けました。震災によるストレスと水の使用を制限された生活により、口腔内にも様々な変化がみられました。最も多かったのは、口腔乾燥症と口内炎です。震災前の同時期と比較すると年齢差はありますが、約 2～6 倍の患者が当院を受診しました。さらに、日が増すにつれて疲労が蓄積し、睡眠薬や抗不安薬を服薬する被災者も多く、意欲低下により食欲減退から低栄養、基礎疾患の増悪を招き、災害関連死に繋がるケースもみられました。一方、被災者は、水の使用を飲料やトイレに優先せざるを得ないため、どうしても口腔ケアを後回しにする傾向がみられ、誤嚥性肺炎に代表される呼吸器関連疾患を発症する高齢者も増加しました。

災害サイクルでいうところの慢性期に入ると、被災者の居住環境が避難所から仮設住宅に移行し、食生活の困難さが浮き彫りになりました。私が代表を務める「食力の会」が調査した限りですが、仮設住宅で生活する被災者の概ね 9 割は普段の食生活に不自由と不満を感じていることがわかりました。歯科医療難民となって口腔のトラブルから機能的に十分な食生活が送れない方から調理環境や買い物環境の問題まで大勢の方が不自由な生活を強いられたまま現在に至っております。

本研修会では、震災後 2 年が経過した現在、地域のボランティア食支援チーム「食力の会」として取り組んでいる内容を中心に有事の口腔保健活動と食支援の在り方について報告し、大規模災害時の歯科の役割について時系列で解説します。いつどこで起きても不思議ではない大規模災害について歯科として何ができるか？そして何を優先して行うべきか？について再考する機会となればと思います。

<ご略歴・所属>

2001 年:北海道医療大学 歯学部 卒業

2006 年:金沢大学大学院 医学系研究科 修了 医学博士

2009 年:公立能登総合病院 歯科口腔外科 医長

2015 年:同 部長

公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長

金沢大学大学院医歯薬保健学総合研究科外科系医学領域 顎顔面口腔外科学分野 非常勤講師

<お問合せ>

【高知市歯科医師会事務局】

TEL : 088-875-5054 FAX : 088-875-0003

メール : kochi-ichiryu@aa.wakwak.com

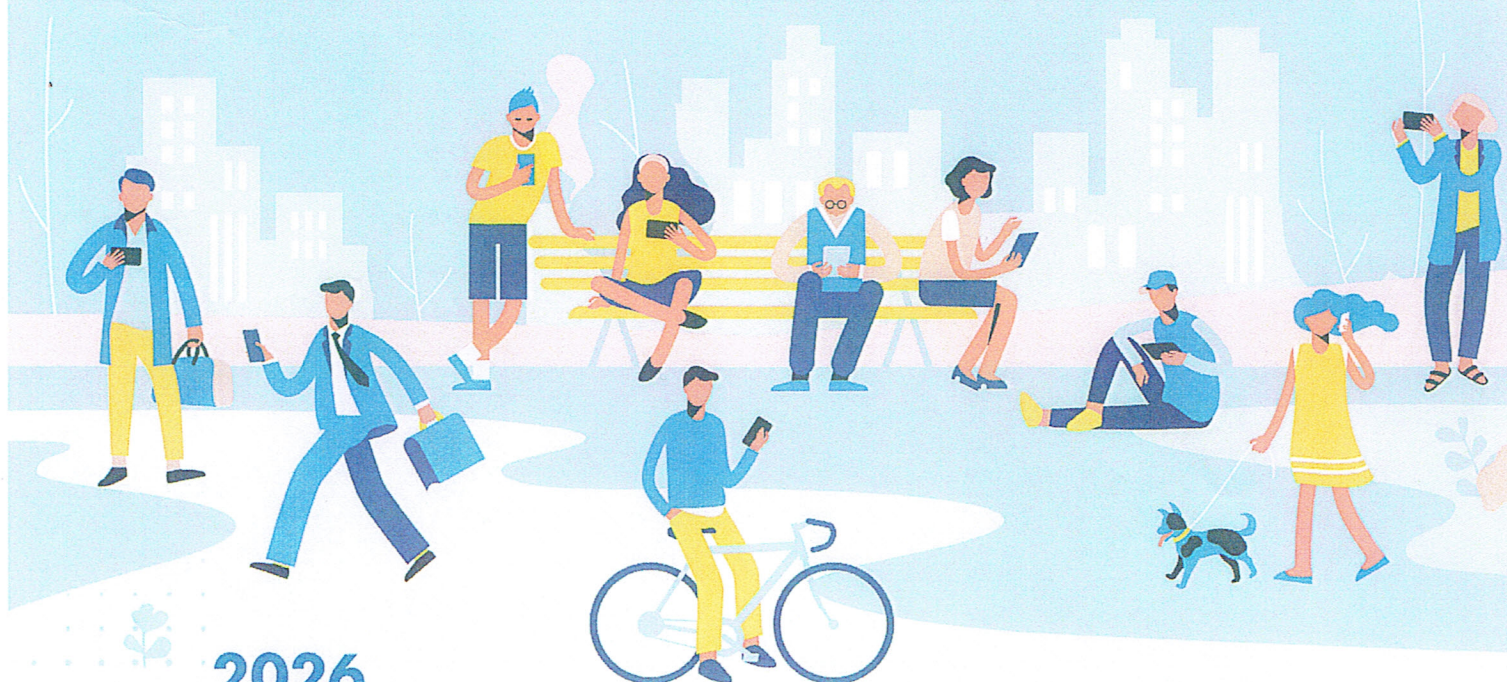
*総合あんしんセンターは夜間救急診療のため駐車場に限りがありますので、公共交通機関やお乗り合わせの上お越しください。

令和 7 年度 医歯薬連携推進研修会

令和6年能登半島地震からのメッセージ

災害歯科・口腔保健活動と 食支援を考える

～ 災害サイクルを考えた連携シフトとは ～



2026

3.6



19:00-20:45

会場

総合あんしんセンター
3階 大会議室

高知市丸ノ内1丁目7-45

申込

高知市歯科医師会

Tel: 088-875-5054

Fax: 088-875-0003

kochi-ichiryu@aa.wakwak.com



講師 長谷 剛志先生

- ・ 公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長
- ・ 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科外科系
医学領域 顎顔面口腔外科学分野 非常勤講師
- ・ 「食力の会」代表